

08・学校でキスはダメって約束したのに地下書庫で無限デープキス

〈シチュエーション〉

トラック7から数日後。

放課後、主人公が学校の地下書庫で勉強をしていると、そこへ鳴瀬が現れ、いちやいちやするというシチュエーション。

場所移動はなし。ずっと地下書庫で過ごす。

**SE1** 図書館の環境音

【最初から最後まで流す】

【0—5秒ほど流してSE2】

**SE2** 主人公が勉強をする音

【最初から最後まで流す】

【0—10秒ほど流してSE3】

【小さな音量で流す】

SE3 鳴瀬が近づく足音

【最初から最後まで流す】

【右耳側に向かって近づいてくる】

【かすかに聞こえる程度のかかなり遠くから、3メートルほどの距離まで近づいてくる】

【0—5秒ほど流して『鳴瀬』のセリフ。歩きながら声をかけてくるイメージ】

● 右 50センチ

■ 地下書庫の机で勉強している主人公を見つけて呼びかける。

鳴瀬は上階から降りてきたところで、階段は主人公の頭から見て右耳側にある。

最初から『主人公は、おそらく地下書庫にいるのだろう』と目星をつけたうえでやってきたので、比較的余裕がある。

だが、どこかそわそわ落ち着かない感じで

「【嬉しそうに呼びかける】

……あっ♥ 居た♥ やっぱここに居た♥」

〈主人公〉

「あ……！ なる先輩……！」

鳴瀬、近づいてくる。

SE 4 鳴瀬が近づく足音 2

【最初から最後まで流す】

【右耳側に向かって近づいてくる】

【3メートルほどの距離から、1メートルほどの距離まで近づいてくる】

【今度は、SEが終わってから話し始める】

● 右 15センチ

■ 近づいてきて、座っている主人公の右耳に話しかける。

鳴瀬は主人公に会いたくてここまでやってきた。だが『やっぱり勉強の邪魔だったかもしれない』と少し申し訳なく思い、不安を感じてもいる

「【あまあまにねぎらう。『えりやいⅡえらい』」

勉強してんの？ えりやいね♡

テストこの前終わったばかりじゃん♡

……ほんとにいつも頑張ってたね……♡

【ちよつと不安そう、申し訳なさそうに。『今大丈夫Ⅱ今、話す時間はあるか』』  
ね。今大丈夫？」

〈主人公〉

「へ？ ええ、もちろんですよ！」

主人公、鳴瀬の方へ顔を向ける。

● 正面 30センチ

■ 主人公を正面から見つめながら、少し申し訳なさそうにおねだりする

「【申し訳なく感じつつも、それ以上に嬉しそうに】

ほんと？　じゃあ……抱っこ、していい？」

〈主人公〉

「もちろんです♪　どうぞ♪」

SE5 主人公が椅子から立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

● 正面 30センチ

「ほんと？♥ やった〜……♥」

主人公、立ち上がった、鳴瀬を抱きしめる。

SE6 主人公と鳴瀬が抱き合う音

【最初から最後まで流す】

【少し大きめの音量で流す】

【だんだん近づいてくる】

● 正面 30〜0センチ

■ 主人公が立ち上がり、近づいてくる。『ぎゅー』で抱き合う。

その後、抱きしめ合って、主人公の匂いを嗅ぐ

【満足げに微笑む】

ふふふふふ

ぎゅー♥

【うつとりと、長いため息をつく。

それから、あまあまに『なぜ抱っこしたいのか』について述べる】

はー……♥

何（なん）かね？ 最近ますます君へのラブが止まらないのさ。

一杯ぎゅーしたくなっちゃうの。

……大好きだよ。好き。めっちゃ好き♡

愛してるよ……♡

【※7回※ 呼吸する。

とてもゆっくり、うつとりと、主人公のにおいをかいでいる感じで】

すう……はあ……。すう……はあ……。

すうう……はあ……。

すー……」

〈主人公〉

「先輩……♡」

SE7 鳴瀬が動く音

【最初から最後まで流す】

●正面 0センチ

「【あまあまに続きを促す】

ん？ ♡ 何？」

〈主人公〉

「キスしても、いいですか…… ♡」

● 正面 0センチ

「甘々に、にやにやと嬉しそうに。

『ゆったⅡ言った』『ハグだけにする気Ⅱ抱きしめ合うだけのつもり』

え？ ♡

前、学校でキスはダメってゆったのそっちじゃん ♡

だからあたし、ハグだけにする気だったのに…… ♡」

〈主人公〉

「でも…… ♡」

● 正面 0センチ

■ あまあまに、嬉しそうに主人公の誘いに応じてたっぷりキスする。

どんどんキスの割合が増えていって『会話の合間にキスする』キスの合間に会話する』

状態になっていく

「【甘々に。『ちたいⅡしたい』】

……ちたいの？♥

なると書庫でちゅーしたいの？♥

【とびきりかわいく】

いいよ？♥

【優しく誘うように。

一つ前とのギャップがある感じで。そのままキスし始める】

……しよ。

んっ……

【※2回※ キスする。

軽く触れるだけのキス。2回目の後に会話に移行する。

甘々に。『ちてたらⅡしてたら』『ちゅーちたくⅡキスしたく』】

ちゅ♥ んっふ……へっ♥

ハグちてたらちゅーちたくなっちゃったんだ。

悪い子だね♥」

〈主人公〉

「……い、いいんですよ。ここは学校じゃなくて、厳密には書庫ですから♡」

● 正面 0センチ

「【※セリフ終わりまで※ キス交じりに話す。

あまあまにたずねる】

あんふ……ちゅ。ちゅ。ちゅ。

書庫だからいいの？

ちゅ♡

書庫は学校じゃないからいいの？♡

ちゅ♡

〈主人公〉

「……そうです♡」

● 正面 0センチ

「ふふ♡ 無理ありすぎじゃない……？♡

【※しばらく※ たっぷりキスする。

ラブラブ甘々な、これまでで一番濃厚なディープキス。

鳴瀬から積極的にキスしていく」

あんむっ♡　ちゅっ♡　ちゅ♡　れんる……ちゅっ♡

ちゅ♡　ちゅ♡　ちゅ♡

れるるるっ……ちゅぷっ♡　れるろ、れるろ、れるろ♡

はあんふ……ん♡　んっ……ぷちゅっ♡　れれれ……ちゅ♡

ちゅ♡　ちゅ♡　ちゅ♡

ちゅるるるっ……ちゅ♡　れるるっ……ちゅ♡

ちゅ♡　ちゅ♡　ちゅ♡

「うっとりため息をつく。

それから、今日ここに来て話したかった事を切り出す。

『この前の話Ⅱ先日伝えた、最近夢に主人公が出てくるという話』

はぁ……♡

あのねえ……♡

この前の話。またしてもいい？

君の夢を見るって話」

〈主人公〉

「……はい？　ええ、どうぞ……♡」

鳴瀬、話すために少しだけ離れる。

SE8 鳴瀬が動く音2

【最初から最後まで流す】

【だんだん離れる】

●正面 15センチ

■『最近夢に主人公が出てくる件』について述べる。

正直な所、少し恥ずかしいし、主人公を一方的にいやらしい妄想のネタにしているようで少々申し訳ない。なので甘えた話し方や、キスでごまかそうとする

「【※セリフ終わりまで※ キス交じりに話す。

特に甘えた感じで。少し恥ずかしいので。また、ちよつと申し訳なさそうに。

照れ隠しにキスして、キスでごまかす感じで。『気持ちいい!!気持ちいい!』

……あれね? 全部えっちな夢なの。

最近、君とイチヤイチヤする夢ばっか見ちゃうんだよね。

だからさあ? ♡

ちゅ ♡

ほんと、ただでさえ我慢出来てないのに、もっと歯止（はど）め利（き）かなくて……



君と気持ちいのしたくてしょうがなくなってたんだ……♡

ちゅ♡

ごめんね？♡

君でエロい夢見て。えっちな妄想しまくって……♡

ちゅ♡ ちゅ♡ くちゅうつ……♡」

〈主人公〉

「えっ……！ そんなの全然！ 全然いいですよ♡  
というか。なる先輩なら、大歓迎です……♡」

● 正面 15センチ

■ 自分の行いについて主人公が快く許してくれたので、内心かなりホツとする。

これによって、夢の詳細について、素直に打ち明けられるようになる

「【特に甘えた感じで。」

嬉しそうに、ちよつとホツとした感じで。『優ちゅ♡優しい』

あは♡ 許してくれるんだ♡

全然大丈夫なんだ♡ 優ちゅね♡」

〈主人公〉

「それでその……よかったらお聞きしたいんですけど。  
具体的には、どんな夢なんでしょうか……？」

SE9 鳴瀬が動く音3

【最初から最後まで流す】

●正面 15センチ

「あまあまに、嬉しそうに。

ひときわいちゃいちゃした感じで話す】

ん……？♡

え、聞きたいのお？♡

いいよ？♡

【少し『どんな風に説明すればよいだろうか』と悩みながら話している感じで】

えっとねえ……？♡ 何（なん）か、現実の続きみたいな夢なんだ。

現実なんだけど……現実じゃありえない事ができるとか、そういう夢。

だからね、色んなところで君としちやった……♡  
ジョギングする時いつも行ってるあの場所でも、保健室とかでも。  
後（あと）……全部覚えてない夢もあるけど……。

【あまあまに、嬉しそうに。

一番言いたいのはこの部分なので】

とにかく。今まで一緒に行った場所全部で、めっちゃエロい事、しちやった……♡

〈主人公〉

「！ あの……」

● 正面 15センチ

「【少し不思議そうに、きよとした感じで。続きを促す】  
ん？」

〈主人公〉

「信じてもらえないかも、しれないんですけど」

● 正面 15センチ

「【さらに不思議そうに、要領を得ない感じで、続きを促す】  
……んん？」

〈主人公〉

「実は、わたしも」

●正面 15センチ

「【ちよつと神妙な感じ、不安そうな感じで、続きを促す】  
……うん」

〈主人公〉

「同じような夢、見てるんです……♡」

●正面 15センチ

「【『えっ？ どういう事？』という感じで。事態を飲み込めない】  
んん……？」

【少しだけ間をおいて、一気に理解する。  
途端に嬉しそうに、きやつきやとした声になる。

『やりまくる』セックスしまくる』『ちてた』してた』

えっ、何それ♡ 君もそうなの？

なるとやりまくる夢見て♡

なるの事一杯おかずにちてたって事？♡

〈主人公〉

「……っ♡ はい……♡」

● 正面 15センチ

「【※上下に軽くびよんびよん揺れながら※

とにかく嬉しそうに。ひときわテンションが高い感じで。『嬉しい♡嬉しい』】

えっ♡♡ 可愛い♡♡ 嬉しいんだけど♡♡」

鳴瀬、近づいてキスする。

● 正面 0センチ

■ 再び至近距離まで近づいて、キスしながら甘々に話す

「【※セリフ終わりまで※ キス交じりに話す。

あまあまに、嬉しそうに。『そちらら〓そしたら』『ちて〓して』  
ちゅ♡

そちらら君は♡ なるで一杯エロ妄想ちて♡

【『オナニーして、何度も気持ちよくなっていたのか』という意味で言っている】  
クリチコして。あんあんぬきぬきイクイクちてたのか♡

エロ〜……♡ 可愛いね♡

ちゅっ♡ ちゅっ♡

【『ちたり、されりゅ〓したり、される』『すぎゅ〓すぎる』】

なるに色々酷い事ちたり♡ されりゅ夢見て気持ちよくなってたのか♡  
ちゅ♡

えっちすぎゆだる♡

はああ……そんな事言われたらさあ……♡  
めっちや興奮してきたんだけど……♡」

〈主人公〉

「そ、そうですか？ 嫌じゃ、ありませんか？」

「特に甘えた、イチヤイチヤした、嬉しさをこらえきれない感じで。

『ちてⅡして』『えりやいⅡえらい』

ええ〜？♥

するよお〜……♥

だってさ？ さっきまで、テスト期間でもないのに一人で一生懸命勉強ちてさ？

頑張ってる君みたいな真面目でえりやい子に……♥

『あなたの事オナネタにして犯しまくってます♥』とか言われたら♥  
我慢できなくなってきたちゃうよ……♥」

〈主人公〉

「あっ……！ ちょ……♥ そこまでは言ってませんよ……♥」

●正面 0センチ

「【特に甘えた、イチヤイチヤした、嬉しさをこらえきれない感じで】  
ん〜？♥ あは♥ そこまでは言っていないか♥」

鳴瀬、近づいて、右耳にささやく。

● 右 0センチ 無声音ささやき

■ 右耳にささやく事で、主人公の欲求を煽る。何が何でも、これからセックスする流れに持ち込みたい位興奮していて、主人公を欲している

「【※マークまでささやく。

あまあまに、嬉しそうに」

でも同じでしょ？

現実のなるとやりまくってるのに。夢のなるともしまくってて。

思い出して一人えっちまでしてるんだよ……？ ♡

それ、オナネタじゃん。犯しまくってるじゃん ♡

ね？ ♡ ※

〈主人公〉

「もおお…… ♡」

● 右 0センチ

■ 右耳に甘々に話しかけながら、すっかり我慢できなくなっている

「【甘ったるくため息をつきながら。あまあまに、いちやいちやと主人公を誘う。

『おちまいにちよ〓おしまいにしよ』『ごめんだけど〓悪いって思ってるけど』」

はあ……♡ すっごいむらむらするう……♡

……ね、今日もう勉強おちまいにちよ？♡

邪魔してごめんだけど、今日はもう無理……♡」

〈主人公〉

「♡」

SE10 鳴瀬が動く音4

【最初から最後まで流す】

●右 0センチ 無声音ささやき

■右耳にささやく事で、主人公の欲求を煽る。何が何でも、これからセックスする流れに持ち込みたい位興奮していて、主人公を欲している

「【※マークまでささやく。】

媚び媚び甘々に、100%誘いを成功させたいという気持ちで、本気で誘う」

うち行こ♡

……うちで一杯♡ えっちななの、しよ……♡」※

ここでフェードアウトして終了。